

暈ト云モノ乃交暈歟ト此コト予○浦清ハ知ラザリシガ、予ガ邸内ニモ觀シ者多シ、其始メハ五ツ半頃、天色朦朧タル中、日光コモリテ見エ、其傍ニ餘程ヘダ、ソテ、又日光ノ如ク小キ光ノコモリタル見ヘシガ、四ツ前頃、又朦朧ノ中光明ハナケレドモ、日象隱翳ヲ隔テヨク見ユ、其少シ傍ニ下リテ、月輪ノ如キモノ亦掩中ニ見ユ、夫ヨリ九ツ半頃暈至大ニシテ二ツ、上下ニ輪違ノ如クアリケル、日輪ハ何クニ在ケン心ツカザリシト、八ツ半頃、日輪赫々ト耀キ、餘ホドワキニ白キ暈、殊ニ大キク見エシト、カ、レバ朝ヨリ晝ヲ過ルマデ、次第ニ其象ヲ變ゼシナルベシ。

〔萬寶鄙事記古六天氣暈〕 日のかさは雨、夕日のかさも雨、又朝日にかさありて、やうやくきゆるときは晴、日のかさ青赤は大風赤きは旱、白は風雨、黒きは大水紫は大旱、

〔續日本紀桓武十七〕 延暦元年十一月辛卯、有光挾日、其形圓而色似虹、日上復有光向日、長可二丈、〔日本後紀嵯峨二十〕 弘仁二年閏十二月己亥、日抱翼、

〔三代實錄清和十四〕 貞觀九年十一月卅日乙丑、日上有冠、左右成珥、色黃白、

〔三代實錄清和十七〕 貞觀十七年二月十七日辛未、日有冠纓宿奎、

〔三代實錄陽成四十四〕 元慶七年七月廿六日庚寅、申時日右有珥、上下有白雲、日即宿翼、廿七日辛卯、申時日左右有珥、其下雲氣形如龍馬、八年正月廿三日乙酉、日有冠、右有珥、色黃、左有白虹向日、是名日抱、廿四日丙戌、自辰至巳、日有冠、左右有珥、色白、即日宿危、

〔三代實錄光孝十九〕 仁和二年正月廿八日戊申、申時日右有珥、二月五日乙卯、是日辰時、日上有冠、左右成珥、十四日甲子、辰時日有冠纓、其色黃白、日即宿奎、

〔日本紀略一〕 延喜十五年七月五日甲子、巳二刻日無暉、其形似月、時人無不奇怪、

〔扶桑略記醍醐二十四〕 延長六年二月十一日、巳時白珥抱日、

〔日本紀略四上〕 康保二年二月廿七日戊辰、出羽國言上、正月八日未時、日之左右有兩耀、即虹貫之、又